

新しい電力市場に対応した 三菱電機 の取り組み



尼子量之*



塚本幸辰**

Mitsubishi Electric Activity in the Area of New Electricity Market

Kazuyuki Amako, Yuki Toki Tsukamoto

加 要

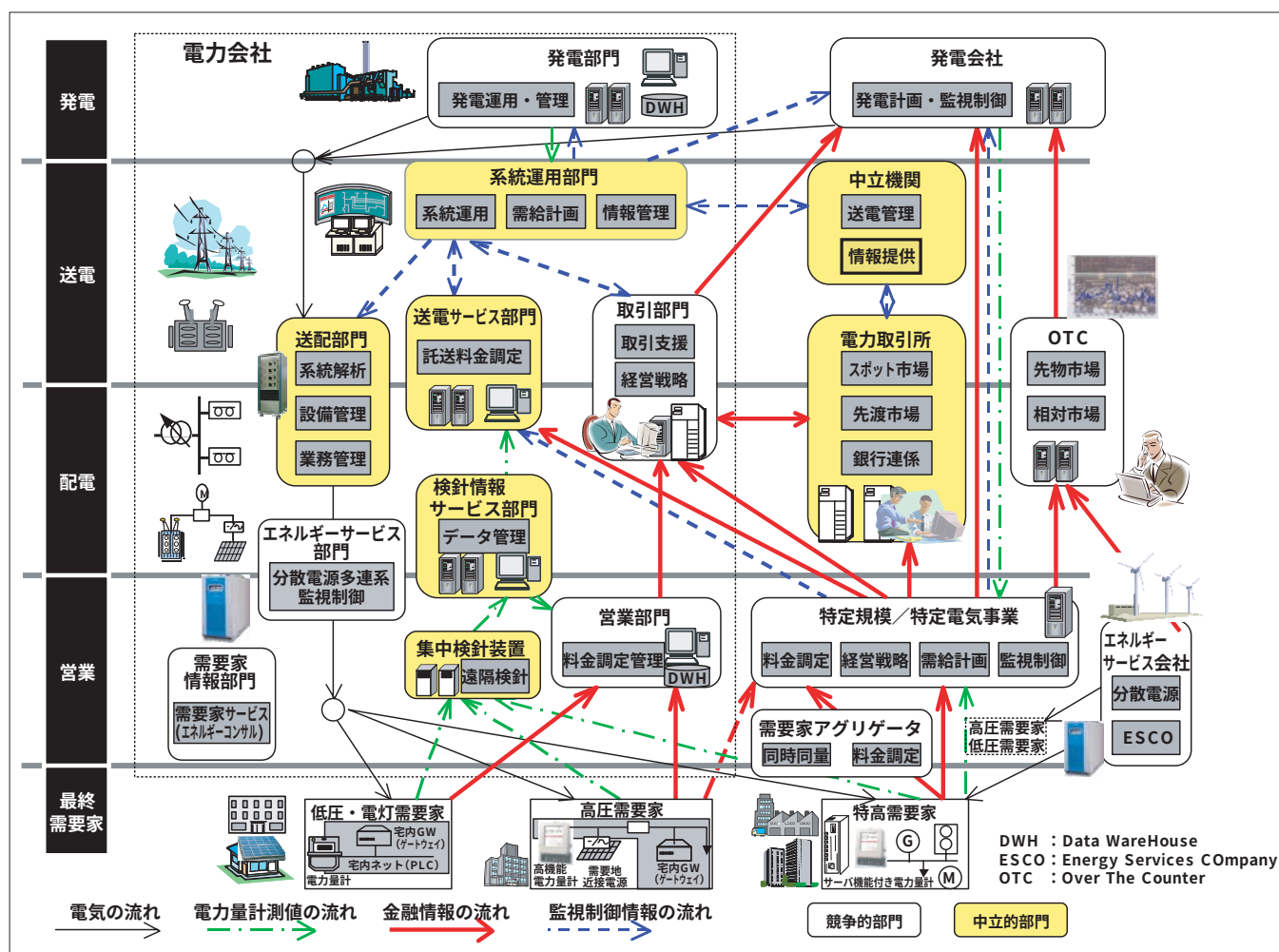
日本卸電力取引所と電力系統利用協議会を中核とする我が国電力市場が運用開始されてからおよそ1年が経過した。電力市場の創設は、政府の規制改革5か年計画の一環として電気事業構造改革の中で議論され、経済・社会及び電気事業の発展に大きく貢献すると期待するものである。

従来の電気事業は、発電から送配電・供給に至る機能を垂直統合として地域独占の枠組みにおいて発展してきたが、電力自由化の中では規制・非規制分野を明確にし、規制分野に対しては公平性と透明性を、非規制分野に対しては事業者相互に競争メカニズムを導入し、新規参入者の参入促進を図り、事業を活性化するものである。企業の透明性確

保の下で、他産業との関連性も明らかになり、適切な投資の誘発及び事業そのものの適正な発展に寄与できるものと期待される。

しかし、投資の最適化は、短期的及び長期的視点によって異なるものであり、競争メカニズムの導入のみでは解決できないことも多い。国のエネルギー安全保障や環境問題を念頭に置けば、原子力や再生エネルギー又は省エネルギーに関して、その位置付けをどう考えるかなどが今後の課題である。

本稿では、電気事業の変革に対して三菱電機が提供するシステムソリューションについて述べる。



新しい電力市場

新しい電力市場には、電力会社のほかに、発電事業者、小売事業者、電力取引所、エネルギーサービスプロバイダーなど多くの市場参加者が存在している。電力システム技術のほか、情報システム技術と金融情報技術を統合することで、マーケットプレイス、電力トレーディング、エネルギーサービス、メタリング・ビルギン、環境マネジメントなどの様々なビジネスが出現することが予想される。